

客中證案

✕  
K 207

F  
カ-39

客中 謄案

全



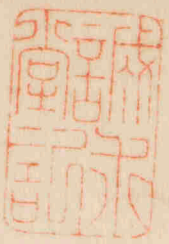
492  
Ka

No. 2849  
IR K 207



菅生川文庫

2670



一防州花園駅湊屋芳右門年四十八三十年未頭瘡ヲ患フ在  
 苒トメ不愈今ニ至ル白髮年齡ニ比スレハ甚多クメ七八十ノ翁ノ  
 如シ其瘡頑ニ癩状ヲナシ漸ク面部ニ及フ其不瘡処モ陰ノトメ皮下  
 ニ存ス所謂ラゼリ初瘡ノ如シ手爪尽ク皴裂ヲナシ或ハ虫ノ蝕ス  
 ルカ如シ其脈常數ニメ不弱大便常ニ溏其他起居動作平生ニ異  
 ナラス然レ時トメ少ク神思錯乱ヲ成ス一アリ○按スルニ廿年多血ニメ  
 カルニ頭髮内ニ頑癩ヲ瘡レ故ニ其毒血液ニ混シ蓋患症ナリ年月ヲ  
 経テ然リ○治方 第一放血一度ニ五六寸一二月ニ兩度散茶方  
 サルヘトトル四錢 スワトフル四錢 カンフル五錢 生アチキモ二錢  
 或ハソイケルヲ加フ右一度ニ五分ヲ服スル一日ニ兩度或ハ三度

○外用 ウラツトワートル 右一部ヲ限リ少シツ、愈スベシ  
一長別教侯ノ臣波多野惣次郎年十五去年春麻疹ヲ患フ後  
一月許ニ感冒忽然トメ左手麻痺癱弱疼痛ヲ覺ユ其愈スル時  
ハ祭熱ノ患処油ノ如キ汗ヲ出ス荏苒トメ不治今ニ至ルサク動搖  
スル寸ハ前症ヲ祭スル一尤甚シ左手ニ比シハ其形肩腕ヨリ拍頭  
ニ至ルマテ大ニ肉脱ス手腕屈曲シカクモ殆ント類中凡半身不遂  
ノ人ノ如ク其他起居動作常ニ異ナラス○按スルニ其馬術家ニテ落  
馬スル一屢殊ニ右手墜馬壓倒スル一アリト云々以テ神経流通ヨロ  
シカラサラシメ且感冒毒相搏テ不遂ヲ致スノ症トス殊ニ其入年  
齡ニ比シハ長傾ス以テ多血ノ候アリトス

○丸薬 サルヘー ゴートスワートル カンフル メラ オビウム

右馬丸薬用ユ○外患部ニ鉄水溶スル一一日ニ次或ハ二次凡ソ三  
十日許ニ効ヲミルヘキカ鉄水冷ルキハ鉄ヲ烙レテ投シ熱セシメ温  
暖適宜ナラシムヘシ○或ハ猪鹿牛犬ノ糞ヲ殺シ温氣アルウキ其口  
ヨリ患処ヲサシ入テ温暖ヲ得ルヲ尤妙トス

一花園ノ馱藤井六左衛門娘年甫九歳嘗テ年ノ前痘ヲ患遂ニ  
淚管漏トナル有福生瘡之内部機那カンフル外用挽帶法ヲ角  
ユ他ニ治方ナシ務テ可長用之

一江村石源太郎年甫十三幼年以來心悸動ヲ患ヒ十歳ノ後尤  
手独自動搖メ所欲隨テ指揮スル一能ハス其脈弱心藏ノ運

動尤甚ク喘息ヲ患ル人ノ如シ面色灰白且ツ結核様質アリ時、  
蛔虫ヲ下ス。○按ニ所謂シントアントーテスピユール病ニメ其蛔虫ヲ  
兼登スル者トス。○治方 ハレリアナ アツサハシタ カロメル  
オヒユム 右為丸或殺虫劑健胃劑并オクリカンキリマク子等  
ヤノ斐々クヘカラズ

一城吉藏年三十三ハルレシイキテヲ登ル一月ニ三次兩度或二  
ケ月三次患者曰幼年蛔虫ヲ生スル一尤甚シト其人其血脈實  
面色赤皮肉肥滿ス。○按ニ其源多血ヨリ登レ且ツ蛔ヲ兼ル者カ  
○治方 第一刺絡一月ニ二次或二次一度ニ八十錢ノ放血ヲ度  
トス テンキフルーム丸茶服用スヘシ

一米又助妻年三十三曾テ七年以前分娩ノ后右膝外疼ヲ覺ユ  
遂ニ兩脚及肩腕臂手節等皆然リ殆ト痛凡ノ状ノ如ク今既ニ  
增長シテ關節強硬ニメ以テ屈伸シカタク然レ其病中産晚スル  
一三次其ノ為ニスル毎ニ疼ニ止ミ既ニ産シ了ツテ五六日ヲ過ル  
トハ前症ヲ登スル一曰ノ如シ其腹ヲ按ニ心下痞硬腹滿小腹少  
ク事急ス其脈弱ナラス少ク数ヲ帯生稟多血常ニ渴メ冷水ヲ  
好ム。○按ニ生稟多血分娩後惡露下ル一少ク良血液ニ混シ分利シ  
カタク骨ノ神經質ニ停住シ痛凡状ヲ癸ス妊中諸症退ク者是  
必血液ヲ胎兒ニ輸シ適宜ノ運動ヲ得停住スル所ナク以テ此ノ  
如クナラシ。○治方 第一放血并丸茶。○其方 カロメルオヒユム

コトスワフルハカニフル三分メラアラヒヤム  
石為丸の外用温湯蒸気 カニフルセップサルフ或ハクイツ  
キサルフ

一上原惣右衛門年三十七曾テ四五年来喘息ヲ発シ瘡ト成テ  
愈ヘズ尤痰咳ヲ發スル少シ○按ニ喉衝熱ニ屬スル乾喘息ノ  
候アリ○治方 第一放血發泡○散葉 サルヘー

スート一棧 ソイケル適宜 右ハ二分チ一日ニ兩度服ス

一花園馱源三郎年三十一六年前左前脛麻痺漸々蔓延メ  
上膝ヲ過キ下拍頭ニ至ル且ツ処々水泡ヲ發完蹠侵蝕メ水  
液流出シ久シク不痊近頃稍瘡ヲ其後右脚亦処々麻痺ヲ

覺テ兩手亦然リ○按ニ天刑ノ委難治ノ症トス然レ其脉強実  
則放血メ後 シフリマート酒刺ヲ試ムヘシ 其方シフリマート

上酒十六錢 右ヨク々研シ混和シ器ヲ搖動スルチ千遍  
一日ニ兩三度用ヒ四日ニ尽ス每用器ヲ搖動スルチ二百遍

一竹村喜右衛門男年九歳去秋以来心悸動甚シク其状黄胖  
ノ如ク當初復ニ至リ惣身滿腫シ今治メ平常ノ如ク然レ  
悸動止サルニ起居飲食如常○案ニ原蚬ノ致ス所トス

治方 アツサハチメラ三分 ケンチ一棧アロエ三分  
右丸トシ一度ニ五粒或ハ十粒ヲ用ユ時々殺虫煎劑ヲ用ユベ

シ

一藝州之侍医市川文微年四十八回年下血ヲ患フル一歳  
ニ一次或ハ二次其祭スルハ動悸劇シク奔走シカタシ毎祭十  
日許ニ愈今年九月他郷ニ在リテ前症ヲ祭シ後惣身微腫  
心悸動小便不利等ノ症ヲ苦ム漸ク治スト虽今猶四支面部  
微腫ヲ残シ面色萎黄脈不弱且ツ不正ニメ結代一身中ノ諸脈  
管尽ク之ニ阜ス○按ニ其素纖維弛寬シテ多血ヲ以テ自然  
ノ放血トナスニ足然レ漸ク老憊スルニ至テ却テ之カ為ニ害  
損セラニ纖維諸脈管ノ末梢イヨク弛寬シ多血ヲ以テ自然ノ  
瘀血トナスニ足ル今浮腫ヲ祭シ兼ヌルニ蛔虫久シク巢ヲ結ヒ以  
テ掌急ヲナサシメ脉結代ヲアラハス者カ○治方 剛鉄 四钱

阿魏 五分 竜胆 日 薄荷油 五滴 没薬 三分

石為丸四日或五日ニ用ユ但シ一度ニ服スベカラズ時々殺虫下  
劑ヲ以テ之ヲ下スヘシ○前劑 茵蔯 泥菖根 杜松木

竜胆 茅根 右水煎

脈強実ナル片ハ硝石ヲ加フ○若シ下血祭シ止サル片ハスワール

ニ钱 空イニステーションニシエール一钱 ソイケル適宜 石八貼トナシ

一日ニ二度或三度○煎劑 玫瑰花 地黃 甘草

大麦 右水煎 大便硬キ片ハ大黃ヲ加フ脈強実熱アル

片ハ硝石橙酢ヲ加フ若衰弱脈小ナル片ハキナンド スワール

フルシエール少ク加フ

一廣島五丁目勝木<sup>キ</sup>屋茂平男年十一嘗テ七年以前腰眼ノ  
部ニ當テ大腫脹シ腰推骨共ニ起脹シ遂ニ破潰シテ左右ニ  
瘡ヲ穿膿汁出ル<sup>ル</sup>數升今ニ至ル迄瘡口不愈膿汁出テ猶  
不止両脚孳急メ不能直立且其部腫脹不減膿汁ヲ存スル  
ノ候アリ腰推起腫スル<sup>ル</sup>殆ト龜背ノ者ノ如シ其他飲食二便  
如常脉數ニ強ナラス舌上粘苔其身体甚穢少ニメ八九歳ノ  
者ノ如シ○按ニ胎毒ヨリ發シ流注メ其毒腰推骨ノ間ニ留  
リ痿トナリ長ク不治トナス○治方 カロメル六匁 マコ子五分  
スート三分 ソイケル少シ 右分テ八貼トナシ用ユル一日ニ三  
度○若大便秘スル<sup>ル</sup>ハ少シク下劑ヲ用ユベシ後 キナ四錢

カンフル三分 右為丸四日ニ服サシム尚キナ煎劑ヲ兼用スベシ  
而メ時候ヲ伺ツテ時々カロメル劑ヲ用ヘシ○外用 第一瘡中ニ  
存スル處ノ膿汁ヲ破出シ鎮帶ヲ用ヒ且ツキナメラノ萎ヲ煎  
劑トナシ或ハ之ヲ以テ洗ヒ或ハ之ヲ瘡口ヨリ腐葉ヲ入レ存生  
スル膿汁ヲ尽ク其内ヲ洗フ一日ニ兩三次縛帶ノ法ヲ以テ押  
過スル<sup>ル</sup>急ルヘカラス○煎劑 サツサハリルラ ガラスヲトル  
メ<sup>苗根</sup>カラスフ スート キナ ○此藥毒瘡ニ最モ長  
一廣嶋星野氏ノ娘年十八乳房結核其大サ鳩卵ノ如シ去  
春ニ至テ初テ其核アル<sup>ル</sup>ヲ知ル後今分レテ數核トナリ漸ク增長  
シテ其核悉ク破潰シ膿汁出テ腰脚モ亦結核アリ頑強ニ

シテ動スヘカラス上ハ乳房ヨリ下ハ膝脚ニ至リ牽シ以テ起步シカ  
タク且ツ腰骨突起シ運動スルハ痛ヲ覺エ左脚スヘテ頑腫腿  
股尤甚シ之ヲ診スルニ生稟結脈様質ニメ頸項処ニ按テ結フ  
猶右乳房并左腋下ノ腺モ亦然リ。○按ニ胎毒漸ニ加重シ殊  
處女熱ノ斯ニ當テ月経来リ微其毒逆流ノ血液ニ混シ諸線  
ノ間ニハサマリ按テ結フ一然リ腿股ノ頑腫其形結核ニ異  
ナリト雖臍中ニ結フノ按ニメ其毒一ナリ若此按テ内藏ニ結フ  
ハハ勞瘵ノ諸症ヲ發スルニ至ルヘシ疑ラクハ内藏中其所為了  
ランカ。○治方　コードズワール十二分　カロメル十四分  
白罌粟舍利別五分　石十四分其二分其一丸ヲトリ臨蓐

ノ前ニ服スル一七日ニメ二三日ヲトメ又之ヲ服ス此方三十日餘  
試ムニ若其効アラサルハ　カロメル十八分　カンキリ一錢  
ラバル三分　ストト二分　ソイケル適宜　右為散八貼二分  
用ユ一一日ニ兩度禁如法。○外用　クイツキサルフ　カンフル  
○常用　カンフル三分　石礮一錢　右丸トナシ用ユ又諸處  
ノ結核ニ是ヲ膏ノ如ク貼ス。○又方子宮ノ閉塞ヲ開達シ胎  
毒ヲ驅除シ急ヲ治スルノ丸茶方　カロメル十二分  
アツサハチメ三分　ハレリヤナ一錢　カンフル二分右為丸十二  
二分一日ニ二度瞑眩ヲハカリテ用ユベシ  
一藝彦之侍医中村元亮一男子ノ病志ヲ問曰患者齡五十

三身幼婦人ノ手ニ長シ保護摂生無所不為其稟賦脆弱ニ  
夙ニ冒シ易シ暑ニアハ之ニ中リ冷ヲトレハ之ニ犯サレテ常ニ  
高堂彩室ニ在テ綾羅ヲ纏ヒ錦褥ニ坐卧ス然ルニ十九歳  
ニ至テ丙王ノ失守スルニ逢ヒ山林ヲ閑キ新室ヲ作り居  
ルト久シカラス所謂脚氣患ニ羅リ漸ク治スル后其居ヲ百里ノ  
外ニ移シ又疥癬ヲ發ス漸ク治スト虽氏其後弥尋病ニ又或  
年ハ水腫或年ハ苗飲等ノ症ヲ患ルト屢ナリ或治レ或發シ  
氣急息迫小便不利ヲ苦ニ漸ク治メ後一年腫瘡ヲ發ス遂  
ニ治メ痔漏ニ変ス漸ク復故ト虽氏猶心下胃部ニ當テ  
物アリ形木石ノ如ク不可押不可移腹痛亦急等ノ症ヲ魚發

ス諸医之ニ用ユルニ多クハ下劑ヲ以テス然レ氏其塊自若トメ消散セ  
身体漸ク枯燥シ心氣鬱メ不樂常ニ吞酸嘈雜酒食少シク過  
度ナルキハ必吐シ纖維弛寬メ水腫ヲ發シ易ク其發スルヤ虚腫  
右側卧スレハ其腫右ニ專ラナリ左側卧スルモ亦然リ其脉少  
シク數下劑ヲ服サレハ大便難通。按ニ其人トナリ庶人  
アラズ疑クハ王族ナラン保護摂生却テ過度故ニ身体諸纖維  
内藏ニ至ルマテモ亦脆弱緩ス加フルニ卑湿ノ新室ニ居メ脆弱ノ  
纖維ヲ犯シ以テ初ノ諸症ヲ發スト虽氏其ノ瘡痔漏ノ悉ニ至  
テハ濕毒傳滲モ亦ナキニアラスカ今患ル所ノ諸症ニ恐クハ表病  
ノ内攻毒ヨリ發スル酸敗液ノ所為ナラン加フルニ内藏弛寬閉塞

シテ諸脈管ノ未梢ニ至ルマテ脆弱ニメ血液水道ノ分利ニ  
便ナラス前症ヲ發スル者カ。○治方 水氣表皮ニ發頭スル  
ハオクリカキリ カンフル 空インスティンシール  
ソイケル 右為散又水氣減スルハ腸胃中伏スル處ノ酸  
敗液ヲ制伏スヘシ其方 カンキリ ケンキヤン  
メンターオリリー ソイケル 右為散  
煎劑 バアルトフルム カラスシルトル ゲンキアナ  
アニシム 右水煎脈強ナラサレハ水楊梅  
ナゲルコイト  
一同処一丁目虎屋幸吉僕三年前右眼ヲ打撲シ漸クニ剛  
膜ト角膜トノ際ニ突起大サ如豆腫子内少シノ患ヒナシ。按

ニ角膜ノブレウクトナリ水様液其内ニ溜瀕ノ然リ。○治方

シイホルトノ按ヲ待テ當ニ先ツライヒスエニピスナリスヲ用テ少シク

点ス

一同処加許野町富田屋菊右門年十九曾テ七八年<sup>歳</sup>右頬下癢ヲ

生ス漸ク長大今其大サ一掌中リ餘リ軟弱ニメ根脚塊ヲ限

ラス中ニ一塊アリ大サ半雞卵ノ如シ其形楕圓ニメ腺ノ如ク

其他空間ニメ粘液ノ物ヲ充ルカ

一同処白島阿野瀧藏妻年廿八當春以來右手足共ニ麻痺シ

指頭殊ニ甚シ左手ニ比スレハ血色ウスタメ指頭爪微紫黒ヲ帶

ヒ復月ニ至テ手ノ大拇指頭痛尤甚シク遂ニ破潰ス一医コレヲ

瘰癧ニ愈然に麻痺猶前ノ如ク寒ニアハ益甚シ今ヤ少シ快ヲ  
覺フ○按スルニ神經衰弱ヨリ發スルノ麻痺イヨク加重セハ寒脱  
疽ノ患アラシカ○治方 ハレリアナ煎汁ヲ作リカンフル丸ヲ送下  
スカンフル丸 ○外用カンフルグランドウエイン以テ摩擦スベシ

一廣陵白鳥一本生遁逸平年四十有餘去年未梅毒ヲ患ヒ  
下疳淋疾或流注様ニ変シ或ハ咽喉鼻梁肉ニ發シ或骨節疼  
痛耳聾等ノ症ヲ發ス諸医甘朮劑及煙茶ノ類ヲ用ルト雖モ眩  
眩ニタエスメ十分ニ不能療今残ル処ノ諸症ヲ數ルニ耳聾殆  
ト不可聞咽喉少シク痛ミ鼻梁近傍微頑硬背部腫脹シ脊  
推少許ノ羸瘦枯竭脉微ニ弱舌上微黃舌脚部疼痛今治

ト虫氏尚弱ニメ立ツテ能ハス○按ニ元未多血質ニメ梅毒ヲ  
傳染ス法當刺絡スヘシ而ルヲ之ヲ不施甘朮煙茶用ルト虫氏  
相適セス毒症ニ血液ニ混シ殊ニ上部ニ甚シ故ニ今此患ヲ残ス  
甚難治トス然レモ未勞瘵狀ニ至ラス尚強壯ノ候アリ○治方  
脉強實ヲ見スモハ刺絡スヘシ時候溫暖ニ至ラハ水蛭ヲ取テ  
耳后近傍背ノ腫部ニ貼シ血ヲ吸シムヘシ後方ヲ用ユベシ

カロメル十二丸 カンキリニ錢 ラバル三分 ソイケル 右十二  
分千一日ニ三度禁法ノ如ク一劑ヲ用ヒ尽スノ後猶眩暈ヲ伺  
ヒ日経テ前方ヲ用ユルニ三次ヨリ四五次ニ至ルヘシ○煎劑下  
劑土伏劑○外用クイッキサルフ腫脹ノ部ニスリコム一日ニ

二次。溫暖ノ蒸氣ヲ耳中ニ入ルベシ斯ノ如クスル片ハ梅  
毒ハ駆除スベシ然レ耳聾ハ治スヘキヤ計ルヘカラス。又  
方前ノカロメル劑ニ代テ可ナリ。シブリマート一匁。上酒  
八匁又  
十六匁。右四日ニ用尽ス梅毒根結ノ疔ナルカ故ニ此方尤  
ヨロシカラシ

一備中後月郡築瀬山成産太郎母年四十九嘗テ十四五  
年前ヨリ喘息ヲ發シ夏時輕ク冬時重ク連年不治一兩年來夏  
冬ノ隔ナク漸ク加重シ當秋來多クハ一月ニ一發シ其發スルヤ脈  
實數呼吸息迫メ將ニ絶セントスルカ如シ漸ク快ニ至テ大ニ粘痰  
ヲ吐ス今是ヲ診スルニ脈弱ナラス舌上胎ナク腹筋拳急ス。按ニ

肺藏ノ拳急ヨリ發スル喘息トス。治方ニサレヘトニルニ十匁

スートホートトソイケル四匁。右八點ニ分チ用ユル一日ニ兩度

○煎劑ニアルターニカラスサルヘトニルニスートホートト

右時ノ疔ニ從テサルヘトニルヲ加減スベシ若喘息大發絶セント欲スル

片ハ三味散劑ヲ蘿蔔汁ヲ以テ服スヘシ或鎮經ノ劑ヲ用ユヘシ其

他脚湯ヲ兼ヌベシ且春温ノ時ニ當テ刺絡シ或發泡ヲ胸肋ニ施ス

ヘシ勉テ治術ヲ不施ハ全治スルヲ得カタシ

一同國三山村三毛氏五郎妻年廿九今秋八月分晩後惡露  
下ルテ不化六七日ヲ経テ發熱頭痛眩暈等ノ疔ヲ發シ后腰脚疼  
痛起居便ラス飲食進ニ難ク心下痞硬項背強リ身體羸瘦

盜汗等ノ諸症ヲ發ス今ヤ四五日ヲ經テ猶不止脈微ニメ少ク  
數舌上微苔面色痿黃頸項三ノ結核アリノ按ニ尋常ノ勞ノ萎  
トス○煎劑 カ子ール キナ ハレリヤナ ノコキリ草  
チンキ スートホート 石水煎丸茶ヲ兼用ス○丸茶方  
カンフル 沒薬 阿魏 三分 メンターリリー 三滴  
右為丸一度ニ五粒日二度或三度諸症減スト亟剛鉄劑ヲ不  
急久ク用ユベシ○脚湯時々施スベシ○若結核消散セサルハ  
サルアルモニヤシ カンフル セープ 右丸トシ久ク用ユベシ結核ノ  
上ニモ此劑ヲ膏ノ如クメ貼スベシ  
一同國丸名村伊達作母年四十六嘗テ痔ヲ患フル久シ又

整。

常ニ白帶下ヲ患フ五六年前舌根上肉起テ恰モ蝦蟇背ノ  
如シ敢テ膿潰セス又痛ナク唯凡寒ニ冒サルハ少シク腫脹シ  
言語飲食等ニ障リアルヲ覺ユ然レ治セス敢テ患トスルニ足ラス  
ト亟其モ亦嘗テ此症ヲ患フ言語ニ難ク後遂ニ半身不遂  
卒風ノ症ヲ發スルヲ以テ大ニ之ヲ怖ル當笈以來小腹ニ塊アル  
ヲ覺フ之ヲ診スルニ其形圓ニメ硬ク横骨ノ上際少ク右ニツク之  
ヲ按スハ少シク処ノ移ルカ如ニメ不痛其他乳房頸項等ニモ結  
核アリ月経順整。又起居飲食恒ニ異ナラス○按ニ遺毒ヨリ發ス  
ル者カ○治方 カロメル 二分 阿魏 五分 ハレリヤナ 二錢  
右為丸十二分 一日ニ三度○煎劑 カラス 蒲公英 ハルトフルム

カ子トール スートホート 右水煎大便ノ通利ヲ考ヘ大黃  
ヲ加減ス。外用子宮ノキリスチールヲ用ユヘシ。○方

サルアルモニヤシ三五或 右ヨクスリ水ニ混和シ水鏡ノ穂ヲ子

宮ロニ入テ注射スヘシ。○蘭人ハサルアルヲ一度ニ一錢位用レト  
アメリツヨシ。○又方 アラビヤゴム水 シグリマート 四半ハ

○若塊ナクメ帯下ハカリニナルキハ

一同國川相村牧五郎母齡四十七八年前分婉後多病月経

不順或過多或數月不來又當テ祭狂シ漸々輕症トナルト垂氏

今時アツク少シク祭ニ常ニ眠睡シカタク祭スルキハ甚シ。○按ニ

子宮寧急ヨリ祭スル狂トス。○治方 ラバル 芝浦 シニテル

ストト 右沸湯ニ投シ蒸氣ヲ出シ服ス腸胃清淨ノ後阿

片丸ヲ服スヘシ其方 ラピユムニハ 或 石一味丸トナシ夜奪

ニ臨ニテ服ス後子宮強壯分解剖ヲ用フヘシ

一備后山野村三木沢石門年四十曾テ五年以前大腹痛ヲ

祭シ絶脈冷汗劇シキ片ハ氣絶スルニ至ル腹中及惣身燒カ如キ

ヲ覺フ人ヲメ團扇ヲ以テ之ヲ吹カシム如此スルノ毎年一祭

常ニ心下痞鞭嘈雜等ノ諸症アリ元來頑癩ヲ患スルノ久シ祭ス

ルキハ周身ニアラハシ藏ルハ片ハ其痕ヲ殘シ唯腿股及ヒ陰囊之

ヲ微ニ患ルノニ面色萎黃眼内不爽舌上稀粘胎飲食ニ便常

ニ不異。○按ニ頑癩母ヨリ祭スル志トス長ク葉ヲ服用メ可治又頑

癰ノ治スルヲ以テ目的トス。○治方、生アチキモニリニ棧

ズワール四棧、サルトールニ棧、ストトソイケルニ棧

右為散七日ニ用ヒ尽ス。或、タインキモール、カロメルズワール

ヲ加工用ユ更ニ温暖ノ時疾ヲ伺ヒ、シブリマート酒割ヲ用ユ夏

月頑癰ヲ癸スル片ヲ最モ宜トス。○煎劑、健胃ノ劑ヲ用フ

其方、メンター、ゲンキ、カラス、ハールドブルム、アニシム

ストトホート、右水煎、

一備中川相村池田六右衛門年四十一曾テ十有一年前疫熱ヲ

病甚熱長ク不退遂ニ所謂瓜勞状トナル漸ク治スト虽氏多病

心下痞鞭動悸甚シク脆弱ニメ冒寒シ易ク脉数ニメ強實ナラ

ス舌上粘苔茶暁色ヲ帶頸項類核ヲ結フ。○按ニ腸胃

衰弱ヨリ癸スルノ酸敗液トス。○治方、カンキリ

ケンキ、メンター、オトリ、右為散。○煎劑、

ケンキ、或為浸用常用カンフル、セーブ

一丸名村坂田官兵衛妻年四十二性稟脆弱十年未益

甚シ常ニ帶下ヲ患甚シキ片ハ陰室中小疹ヲ癸ニ痒

ミアリ今漸ク輕忘トナルト虽帶下猶不止大推身柱

ノ辺寒冷ヲ覺ユ心下無力常ニ物ヲ以テ之ヲ按ス其

他脆弱ノ症奉テ不可計脉弱舌上少ク乾燥眠ル片ハ

甚シ大便秘結小腹穿急心下痞鞭。○按ニ性稟脆弱且

子宮衰弱ヨリ登スル諸症トス。煎劑 カ子ール

カラス ナーゲル ハレリヤナ 右水煎

丸劑 エイセル ゲンキ アツサホーキタ ハレリアナ

一備中浅海村高枕六郎次妻五六年以来骨節疼痛

節殊ニ甚シ左臂掌急少ク腫起屈シテ不伸右臂モ急

然リ而ノ少シ輕シ左ノ足背微痛アリ其痛常ニ昼輕

ク夜重シ。患者曾テ梅毒帶下等ノ患ナシト云決メ

梅毒ヲ兼ヌルノ症ナラン。治方 カロメルハ

ラバル三分 カンフル二分 スート三分 ソイケル

右八貼トナシ日ニ兩度臍眩ヲ推リ三四劑ヲ用ユシ

煎劑 サツサ。パリルラ ガラスオルトル スートホート

ユニ。ヘルボトム右如法水煎。外用 クイキサルヲ

以テ摩擦スヘシ若脈強実ナル時ハ刺絡急ルヘカラ

ス若疼痛治シ諸症退クノ後關節ノ腫脹減セサル時ハ

セー。プ。サルアルモニヤシ カンフル等ノ膏ヲ作り患部

ニ貼スベシ

一同國七日市駒仙三郎娘年十一久咳嗽近來眼中赤

色ヲ登。按ニ肺藏焮腫咳嗽登スル症トス。外用

カモメル アルター カンフル 右袋ニ入少シアタメ

眼上ニ置。煎劑 アルター

一梁瀬村山成清三郎年三十一嘗テ十五六歳以来人ノ吾躰之傍ラニ近クイテ忌ミ且ツ黙トメ静坐シ人ノ来ルイテ惡シ又時トメハ多言外ニ出對話スルイテ好ム漸ク以テ復故其后二十三四歳ニテ再ヒ前症ヲ發シ一年許ニメ治ス然リト虽時々前症ヲ發セントス。治方  
放血清冷下劑

一大江村池田東逸年四十八初兩手無故時々微痛而後腰痛トナリ延テ脚部ニ至リ其痛久年不治亦左脚大指麻痺メ知觸ヲ覺エス脚跟亦麻痺ス常顛門冷易ク冷レハ則感冒ス其他飲食起居常ニ異ナラス脉少ク

強○按ニ久年ノ痛凡毒トス。○治方ニカンフルニカ

サルヘー五分大ゼーブニ裁シ右為丸溫暖ノ時ヲ伺ヒ

シブリマード酒劑ヲ可用其方ニシブリマード一丸上好酒ハ

或ハ十六裁右鏝ニ入振り動ス一十遍四日ニ用ヒ尽ス

一日ニ兩度毎用鏝ヲ振り動ス一十遍不可怠。外用

カンブルブランドエン。テレメンテローオリ。右和ニ患処ヲ

摩擦ス

一同人男子年二十去年八月外頃冒寒ニ後久ク不癒或ハ盜汗或脚部挛急或ハ大便秘結時々瀉ニ其他鬱憂心志不樂等ノ諸症ヲ魚諸医皆勞瘵トシテ黄芪鼈甲湯建

中湯ハ味丸等ノ劑ヲ用ユルモ虫無寸効至于今猶不  
治其脈實數舌上乾燥靜脈之起咳嗽絶テ有ルナリ  
結核ニ赤ラス○按ニ素多血性稟勞瘵ノ諸症ナリ  
維微ニ弛寛ス諸医温補ノ劑ヲ用ヒ以テ然ルカ  
○治方 第一刺絡○煎劑 ガラス アルター ゲンキ  
一サルペートル スーヤ 右水煎時ニ殺虫劑ヲ與ヘ可  
試若衝逆スル片ハ脚湯ヲ用ユベシト  
一築瀨村山成直藏年三十酸敗爪氣ノ症○治方  
カンキリ一棧或ハマダ子シヤ ゲンキヤナ三分  
ソーソーニ滴 ソイケル適宜 ○右六貼ニ分チ二日ニ服ス

○煎劑 マンター アニシム ゲンキ ゲンブル  
右水煎大便秘スル片ハラバルヲ加フ否則パベルヲ加フ  
一梶江村山本吉右衛門年三十五二年前腹痛ヲ發ス所  
謂旧腹痛狀漸ニ治スト虫猶微痛心下痞嘈雜等ノ症  
アリ脈實數舌上粘苔面色赤纖維硬多血ノ症トス  
治方時ニ刺絡健胃下劑ヲ用ユベシ嘈雜甚シキハオクリ  
カンキリ マク子シヤノ劑ヲ可用○煎劑 マンター  
ゲンキ ゲンブル アニシム ラバル パベル  
右水煎若脈イヨク強壯ナル片ハサルペートルヲ加フ否ラ  
スノ嘈雜甚シキ片ハ雞子壳等ノ者ヲ兼用スルモ可也

一與井村池田文祥齡六十六曾入三年前中風ヲ癈シ  
右半身偏枯ヲ患フ漸々愈快ト虽起坐シ難ク言語微  
難是ヲ云ント欲メ彼ヲ言ント彼ヲ言ント欲メ是ヲ言フ  
人ヲ見テ常ニ笑フ笑フ片ハ手足寧急大便常ニ秘結  
ス時々腸胃ヲ滌除シテ擦劑ヲ用ユベシ○滌除劑

オンデルソート ラバル スリート ゲンキ 右沸湯ニ投

シ茶氣ヲ出シ可用○常用散茶クイッキモリル兼用

カンフル丸右一度ニ二十九一日ニ二度或三度用ユ

擦劑方 本方カヤプーレート若欠クルニアハ上好酒サレ

○アンモニヤシヲ和シ摩擦スベシ

一七日市販善左衛門娘曾テ四五年前感冒ヲ患大ニ咳

嗽ヲ癈以テ頭腦ニ徹シ后両手軟弱ヲ覺ユ殊ニ右手

麻痺偏枯輕忘ノ者ノ如クメ且疼痛ス其疼初メ肩腕

ヨリメ漸々指頭ニ至ル當春來左手ニ痛ヲ癈ス月経

不順其脈不強壯且四五十度ニメ結代ス○按ニ傷冷

毒ヨリメ癈スルノ志トス○煎劑 カ子ール ガラス

ナールナールユニヘル スリート 右水煎カンフル丸ヲ兼用シ常

ニ擦劑ヲ可用カンフルグランドグランドニ或サルアルモニヤシブライ

トエシヲ以テ可摩擦スベシ

一同郷善左衛門年五十三關文若胸痛甚シキ片ハ癈泡

膏ヲ貼スベシ。煎劑 アルター スー ト カラス  
サンビキス サル ト

一同処亭作妻年三十一曾テ七八年前眼疾ヲ患ヒ後  
常ニ多病ニメ四五年前ニ至テ齒齦腫起膿汁出牙齒  
漸々脱落シ今下齒五六枚ヲ残ス動搖甚シク將ニ脱  
落セントス其他尾骶辺膿潰腫ヲ登スルニ數度且顔  
部脊背發痛脈弱壯ナラス。按ニヘーニスヨリ登スル  
症其痛ハ切斷セハ忽チ可治。治方 カンキリ一匁  
カロメル八分 カンフル二分 スー ト五分 ソイケル適宜  
右為散六ツニ分チ一日ニ兩度暝眩ヲハカリ下劑ヲ服

セシムヘシ。含嗽劑 アラビヤゴム 洋解水 カンサイ精

テシキテル。メラ 右合セ先初メシフリマート羊皮入シ試

ムベシ梅氣感ルハ漸ク愈去年六月以來兩膝痿弱  
疼痛其痛夜甚シ且遠路ヲ歩行シ温泉ニ浴メ小瘡ヲ  
登ス又硫黃湯ヲ作り浴之三七日小瘡愈ルト虫疔猶  
脚部軟弱以テ起步シ難シ土茯苓水銀ノ劑無寸効按ニ  
癩毒ヨリ登スル疥癬ノ姿トス。治方 脚湯法メシタ  
カモメル 右ニ味煎シ兩脚ヲ入ルニ半時許リ一日兩  
度而メカンフルブランドウエイン或テレメン油等ノ如キ揮發  
劑ヲ可用。緩和煎劑 アルター スー ト カラス アニシム

バハル 石水煎 ○外用 渚水夏月ニ至テ行フニ

一備中築瀬山成敬太郎母年世八十二年晚后月水来ル  
一少ク平生多病殊ニ九年前不幸ニメ其夫死ス然メヨリ  
益多病之ヲ診スルニ性稟脆弱神經質ニメ觸知スルト事  
急ニ易ク心悸動甚シク心下痞硬下利ニ易ク飲食不  
化居恒咽中物アルガ如キヲ覺ヘ項背強リ心志不樂  
病奈スルハ殊ニ鬱憂悲悶ス。按ニ元来脆弱事急質  
故ニ以テ分身後子宮内ノ諸脉管急閉塞ニ經行少シ  
之カ為メニ心悸上衝其他諸病ヲ登スルカ。治方 煎劑  
カ子ール中 大 小 ケンチ小 アニシム小 ノニス

ナアケル 三滴 石水煎 下利止ムハノミナトケルヲ去リキ

ナハレリアナヲ加フ。丸劑 ヲセルニ幾 アツサホーケタニ幾

ハレリアナニ幾 石十二ニ分チ日ニ二度。子宮強壯煎劑

キナ大 ゲンチ小 トイセンドブラード中 ハルトブルームオル

テル中 石水煎 テンキテールエーセル 土滴 ヲ和シ一日ノ服量

下ス若キナ少キハ蒲公英根ヲ倍ス

一備後福山宮本屋傳兵衛娘年十四一兩年未腋下結

核漸々増長シ肩背項頭赤數核ヲ結ス。按ニ胎毒ヲ

リ登スル腺ルカ。散劑 カロメル六分 スポニギウス 霜ユク

カンキリニ幾 ラバル二分 スート三分 ソイケル適宜

右八ニ分午一日ニ二度禁如法瞑眩ヲ伺ヒ疹ヲ瘥スルニ  
至ラシムルヲ勿レ○常用丸薬 カンフル三分 ゼープリ一錢  
右丸トナレニ日或四日ニ用ユ○外用同方ヲ以テ膏ノ如  
クナシ貼ス或サルアルモニヤレシヲ加フ○クイツキサルフモ亦  
可ナリ

一備中大江村磯八年四十九腹痛ヲ患ル一十七八年  
嘈雜吞酸或惡心或嘔吐荏苒トノ不愈今ニ至ラ脉女  
ニメ強ナラス舌上粘苔身体枯瘦腹中急右脇肋下肝藏  
ノ部ニ至テ苦悶苦痛ヲ覺奈スル一午後ヨリス○按ニ  
頑癰毒内攻ヨリ瘥スル酸敗液トス○散剂カンキリ一錢

ゲンチニ分 雞子ニ錢 ラバル三分 マンター油 三滴 ソイケル適宜

右六ツニ分午一日ニ三貼○煎剂 マンター アニシム ゲンブル

ゲンチニ分午一日ニ三貼○煎剂 マンター アニシム ゲンブル

ル時ハ嬰粟壳ヲ去リラバルヲ加フ時候暖温ヲ伺ヒカロメル下

剂ヲ用ヒサレハ根治シ難シ其方 カロメル二分 ラバル三分

ソイケル適宜 右六ツニ分午一日ニ三度禁如法一剂ヲ尽

スノ後三味下剂ヲ用テ下スベシ

一備後福山城下本町岩橋屋萬石工門年四十四年前始  
テ腹痛嘔吐吞酸等ノ症ヲ瘥シ漸々ニメ治ス今年七月  
以来又前症ヲ瘥ス漸治スト虫胸肋下ヨリ背ニ徹メ痛

アリ劇シク発スルキハ嘔吐ノ甚痛ム。○案ニ酸敗液ノ志  
トス。○治方カシキリ一匙 ゲンチニ分 メンターオリソ  
三滴 ラバル三分 ツイケル 鶏子壳ニ匙 右六ツニ分  
チニ日ニ服ス。○煎劑 メンター ゲンブル アニシム  
ゲンチ アウラン 良姜 石水煎大便ノ通ニ隨テ芭  
硝ヲ用ユ若前劑ニテ根治シ難キハカロメル劑ヲ可用  
一七日市販新善次郎齡五十四眼病ヲ患ル。十二年又  
五六年來咽喉痛ミ時々發シ時々荏苒トメ今ニ至ル  
之ヲ診スルニ其眼淚管痿トナツテ膿汁出テ眼眶ヲ刺戟<sup>ゲキ</sup>  
シ痛ヲナス。明カナリ。○案ニ梅毒ヨリ發スル症カ然レ氏

患者云ク梅氣ヲ患ル。曾テナシト。○眼洗劑 キナ煎汁

メラ 右混化シ洗フ シフリマート酒劑 上酒十六匙

シフリマート一匁 右洗葉ヲ以テ洗ヒ縛帶ヲ施ス。五六

十日ニメシフリマート酒劑ヲ可用若荏苒トメ不愈中ハ

キナ カシフル 散トナシ或丸トナシ用ユ或洗葉ゴラルド

ヲ用ユ銀蜜陀僧

一備后手城村宮松齋年五十類中風。○カヤプリーターシ

アタルニ ブラント空イン サルアルモニヤシヲ患處ニ摩擦ス若

心下痛大便秘スルキハ ラバル ミスヘルス ノミス ゲンチ

スート 右振出し服ス或オシゲルソートヲ加フ若半身不

遂卒中ホノ疔ヲ癩セント欲セハ急ニ刺絡スヘシ其量ハ  
十錢ヨリ百錢或百二十錢ニ至ルベシ揮癩香竈ノ焚ヲ用ユベ  
カラス唯酢ノ蒸氣ヲ用テ之ヲ嗅シムベシ其他疔ニ隨テ清  
涼下劑或キリステルヲ用ユベシ  
一備後福山宮本屋傳兵衛年五十四惣身面部小瘡ヲ  
癩シ疥癬ヲナシ夜蓐ニ入テ緩痒ニ甚ク小水不快通具  
佗無異疔至于今不治ナルヲ五六十年ノ治方クイツキモ  
或スワソフル生アシキモノ等ノ散劑ヲ試ムベシ三四日  
ニメ其驗アラサルキハレブリマート酒劑ヲ用ヒ時々放血  
利水下劑等ヲ用ユベシ○利水下劑方 ガラス ユニセル

ユニセルボームサルトー、ゲンチ、ストト、泥菖根

石水煎若大便通利宜シカラザルハ大黃ヲ加フ

一井原弥十郎妻年三十七梅毒ヨリ癩スル右手痲痛

ハ疔ニレブリマート酒劑。外用癩泡膏長ク癒スヘカラ

ズ患ル処ニ於テスベシ

一同郷大概治石衛門娘年十有六當年五月兩脚腫起

シ漸ク差テ後大ニ肉脫飲食不進心志不樂等ノ諸疔

ヲ癩シ后兩膝下雁瘡狀ヲ癩シ兩手モ亦然リ十一月頃

ニ至テ齒齦ヨリ出血シ齦肉脫シ且月經大ニ下リ甚

色紅ナラズ黒色ヲ帶ヒ敗血ノ如シ其后稀薄汁漏ル

日廿餘日ニ至ル漸々ニメ治スルト虫氏今其餘症ヲ残  
ス其脈數。按スルニ性稟纖維弛緩結核狀質ニメ脈  
毒ヨリ登スル敗血ノ症トス。前劑キ十四錢。ゲンチ  
三分。泥菖根一錢。右九十六錢ノ水ヲ以テ煎シズ  
ワトフルニエール三滴ヲ入二日ニ服ス若下血不止片ハ玫瑰  
花甘草。地黄。大黃。右四味水煎服スヘシ若シ脈  
強實ナル片ハサレペーテル。橙酢ヲ加へ脈弱ナル片ハ  
キナヲ加エローザヲ倍ス。兼用散劑。ズワトフル四  
ストトニ錢。カンキリニ錢。カンフル三分。右十二三分日  
ニ三度服メ小瘡ノ愈ルニ至ル。外用。カンフル三分

サルアル五分。セロプ一錢。右混化シ膏ノ如クシ結核  
上ニ貼ス若シ諸症減シ結核ノ殘ル片ハ此劑ヲ丸ト  
ナシ長服スベシ。一備中大江村勘四郎年四十五去年腰痛シ后腹痛ニ  
轉シ其症所謂留餘ハ如ク當笈六月以來周身浮腫大  
便難等ノ症ヲ登シ大ニ衰弱シ右肩ヨリ手腕ニ至リ  
テ痛浮腫漸治ト虫氏今尚存ス。案ニ酸敗液ヨリ登  
スル候アリ。散劑。カンキリニ錢。サレト六分  
カンフル三分。マンター油三滴。ソイケル適宜。右為散  
八三分。日ニ三度。煎劑。ガラヌ。泥菖。ゲンチ

ハフリイルブルムサルペーカルチー右水煎大便  
秘スルキハラバルヲ加フ若大便數ナラス大便不秘片  
ハサル。トヲ去ナリゲルコロイトカ子ールヲ加フ若小便  
不利スルキハテレメンテナハ茂雞子黄一滴ヨク  
ヨク混和シ膏ノ如クシ腎藏ノ部ニスル一日ニ二三  
度若牛胆求ルヲ得ハ内外ノ利ニ加ヘテ尤妙トス  
一備中川上郷宇戸谷村音右兩年五十八嘗テ患利疾  
漸ク愈テ後小便不利或通スルカ如ク或漏ルカ如シ  
○治方バルサムコソハイハセ痛雞子黄一箇アズビヤゴム  
八十目右混和シ能ク振動シ一度三ヒ一日ニ二三度服

一梶江村小田敬齋嘗テ小瘡ヲ患ヒ漸治スルノ後二  
三年ニメ年々登シテ不止項背強急心下痞硬脉強壯  
ナラス舌上粘苔○按ニ内攻毒ニ因テ苗飲ノ症トナ  
ラントスル者カ○治方クイキモール九加カンフル○又方

カロメル十二瓦ズフトフルニ茂カンフル一分ソイケル適宜  
右十二ニ分チ一日ニ三度○外用角方放血○登泡  
ウラントワトテル  
一宇戸谷村藤吉年五十七三年己未耳鳴ル一時甚  
シ時ニ輕シ當夏六月ニ至テ初テ頭痛ヲ登シ臍前ヨリ  
額上ニ眼底ニ及ンテ益甚シク昼夜間断ナシ時ハ心

下動悸ツヨキアアリ之ヲ診スルニ脈大ナラス然開文  
脈鼓動レ膈前額上稍々温暖ヲ覺ヘ眼中少シク赤ク  
焮熱状ノ如シ○按ニ腦蓋骨ノ焮腫トス○治方茅一刺  
絡八十莖ヨリ百二十莖ニ至ル先ツ六十莖ヲ取テ試ムベ  
シ○脚湯塩一握○散劑○カロメル十二瓦 ラバル三分  
ソイケル適宜 右六ニ分チ二日ニ用ユカロメル劑氣尽ヲ  
伺テサルヘト劑ヲ服ス サルヘトストガラス  
ゲルスト 水煎服ス  
一大江村大塚三郎助年五十三嘗テ十六歳ノ時ヨリ  
頑癰ヲ患ヘ漸々周身ニ蔓蓮ス○治方カロメル十六瓦

一バローフルニ莖カンフル三分 右為散十瓦ニ分チ年日ニ  
三度毎服一服○又方クイツキモール丸一度ニ粒日ニ  
三度○又方生アチキモール散○外用又  
ウラツトワートル○又方エハツモズワトスル丹ニ上  
ラハルアルイン右五味上好ノ酢テヒキ付ル  
一吉井村川上屋重藏年四十當六月以來腰痛夜蓐ニ  
居テ一睡後多クハ五更ノ頃頻々疼痛天明ニ至テ  
止ムニ三年來右ノ鼻孔塞リ常ニ濃涕ヲ漏泄ス○按  
ニ按毒ヨリ瘖スルノ症トス○治方カロメルニラハル  
ソイケル適宜 右六ニ分チ一日ニ三度服中禁如法



ヲ治スルノ劑ニツイツキ劑ノ氣去テ后散劑ヲ用  
サレペー。スートニ。ソイケル四。右十貼ニ分チ一  
日ニ二貼ヲ朝夕ニ服ス。一井原岸彦右門妻五十九。二年来左ノ肩腕疼痛ヲ  
覺ユ當九月ニ至テ更ニ甚シ左腋モ亦痛ム医痛凡ト  
ナレ刺絡ヲ施テ効ナシ。○按ニ傷冷毒ヨリ発スル痺  
病トス。○オヒユム十八。カニフル五分。アコラトニ分  
ス。トニ。ソイケル。右十二ニ分チ一日ニ二度或三  
度。外用。ホルトカル。サルアル精。右混和シ患處ヲ  
摩擦ス。

一同國何辺青次郎年十六積年酸敗痛一カニキリ  
カロメルハ。スート三分。ヲバ。ソイケル。右八  
ニ分チ一日ニ二度。○常用殺虫劑。雞子壳ヲ糞急テ用  
ユベシ。且時候ヲ伺ヒカロメル下劑ヲ用ユ。一  
一。簞瀬権之助年廿五。蛔虫ヨリ発ス。諸症。○カ  
アツサホ。午ダ五分。ホレリアナニ。ゲンチ一  
右為丸用ユ。殺虫劑。服スル。后香竈健胃劑。不  
服サシム。一井原明岸彦右門年七十一。酸敗腹痛。○  
一。カリカー。カ子。ア。アウラ。

ゲンケ一棗 右蜜煉豆二粒程ツハ服ス  
一同郷大概海三郎妻年三十六嘗亦四年前熱病ヲ患  
五月頃ヨリ初テ腰痛ヲ發シ其痛右腿ノ後ノ間ニ  
止マリ漸々增長シ六月ニ至リ甚ク起居シ難ク後  
或又發シ荏苒トメ不治今ニ至ル且積年如麻小水頻  
數ニメ痛月経不順時々微頭瘡ヲ發スル其ハ諸症輕  
キヲ覺エ脈不壯舌上無胎患處ハ按レハ少シク微ス  
○按ニ熱毒流注ノ因ヨリ發スルノ症トス○茅一患  
処發泡永ク施スニヨロシ○散劑 カネナル五  
角石四錢 青サレト一錢 石合高一度ニ五分

服スル一日ニ一度○煎劑 カ子トルハレリヤナ  
ナトケルガラスエトセルトト若シ鉄  
砂ヲ入服シ難キハ鉄砂ヲ為丸服スルモ可ナリ若  
シ小便淋瀝等不治片ハ石斂 茅根 甘草 亞麻仁  
アラヒヤゴム等ノ煎劑ヲ作り與フハルサム或  
ハハルレンレインサート等ノ油委ヲ服用スベ  
シ○外用脚湯頭瘡劇シキハズワトフル劑ヲ内服ス  
一山村平助年六十淋疾ヲ患フルト六年常ニ濃汁出  
去季末陰莖硬結シ漸々腐敗翻花ニ陰莖腐爛ニ去リ  
前ハ横骨ヲ越ヘ後ハ會陰ヨリ肛門ニ至ル迄療之甘



痺面部周身斑ヲ發シ立起メ紫黑色トナル。按ニ西洋所謂ラセトソトノ内オリハシトシトキニメ雅治ノ症トス。○治方 煎シブリマート酒割ヲ勉テ用ヒ瞑眩ヲ恐ルヘカラス。一井原町長吉年五十九當正月来炊腫眼ヲ患フ過半瘡テ后上下臉痛ヲ残シ時カスミヲ成シテ不爽ヲ覺フ瞳子ハ恙ナシ。○治方 眼辺發泡。○蒸劑  
カモメル アルター カンフル 布ニ包温メ蒸ス若不愈時ハカロメル下劑ヲ用ユル。如法  
一川相村周次郎年廿七曾テ心下ニ痞硬スル。久シ

経年ニメ愈エ今又前症再發シ且時々嘔吐ス。○治方 駟凡健胃酸敗整復ノ劑ニ宜シ。○前劑  
メンター  
ゲンチ  
オトル 右水煎時々殺虫下劑常用散葉  
エトレン 壳  
コセセル  
各ニ  
ゲンチ五分  
メンター  
オトリ  
五滴  
右為散一度ニ五分日ニ  
二三度  
一備後神辺駅江戸屋某丹毒ヲ患ヌ令ユニペルボム  
一ストト<sup>中</sup>サル。ト小カラス大  
右水煎。○外用  
蒸劑  
ムーデル  
コロイト  
布ニ包ミ火ヲ以テ温メ

蒸ス 神内 丹元 山 口 本 起 一 百 五 十 錢 大 七 心 腎 湯

一備中築瀨村元右工門年三十四曾テ三年前四月初  
テ陰部ニ小瘡ヲ癢シ水銀劑ヲ服瘡全ク治スカ如ク  
其年九月再ニ小瘡ヲ癢シ遂ニ全身ニ蔓延シ其形千  
楊実ノ如シ其五六処或ハ七八処或癢シ或没シ日ヲ  
延テ不治医之ニ甘草及シブリマト酒劑ヲ與テ全  
治スルヲナシ今ヤ咽喉腐爛乾燥声啞心下痞硬吞酸  
嘈雜大便秘等ノ症アリ○治方ニシフリマト酒劑  
含嗽劑 波菜テニキテ<sup>十</sup>五滴ヨリ<sup>二十</sup>滴マテ アラヒヤブム水  
<sup>百五十</sup>錢 <sup>メ</sup>ル口トドハ<sup>錢</sup> 右混和メ供用ス

一同國小田馭吉沢屋幸藏妻年廿三去秋出産悪露下  
ルト少ク其後癸癩夜ニ不寐形如癸狂漸ク輕忘ト十  
ルト蚕氏時トメ或爵憂聞問ニ或忿怒ニ脉十二メ少  
シク數舌上無苔飲食不美大便不通荏苒トメ今ニ至  
ル○案ニ産後悪露不下子宮嫩衝ヨリ癸スル事急ノ  
症カ○治方ニ若脈実ナルキハ少シク刺絡ヲ試ムベ  
シ○脚湯 食塩 白芥子 如法ニ夜ニ施ス○丸劑  
一カロメルハ<sup>錢</sup> アツサホ<sup>一</sup>ケダ<sup>三分</sup> ラハ<sup>三分</sup>  
ハレリア<sup>十一</sup>錢 右為丸十二二分<sup>分</sup> 十日ニ二度○煎  
劑ニガラス<sup>數</sup>カ子<sup>一</sup>ル<sup>ハ</sup>ム<sup>一</sup>ゲル<sup>セ</sup>ト<sup>ペ</sup>ル<sup>メ</sup>ン<sup>タ</sup>ト

右水煎若大便秘セハラハルヲ加フ脉弱ナレハ「ハレ  
リアナヲ加フ而メ腸胃ノ滯除ヲ伺ヒ阿片丸ヲ可用  
一凡ヨリ三凡ニ至ル初ヨリ多服セラ劇シク瞑眩セ  
シムルヲ勿レ  
一同国甲怒村伊右門年六十四嘗テ十四年前淋疾ヲ  
患漸々治スト魚氏小便後痛アリ時々休作アリ祭ス  
ル片ハ小便難荏苒トメ不治ノ案ニ纖維ノ脆弱ヨリ  
祭ル人症ノ治方ニアラビヤゴム水 四十八錢  
ニツトリムトリリスニナテキノ煎劑 ガラスカ子ール  
「ストト」アルター「エーセル」右水煎〇鉄水ヲ以

テ尿道ヲ可洗

一小田馱善平次娘年廿九曾テ三年前分娩ノ惡露下  
ラス然レ無故経日テ後肩腕疼ヲ覺フ「打撲」ノ如シ  
漸々遷轉メ腰脚ニ至リ益甚シク屈伸行步難シ且其  
痛夜ニ入ルキハ尤劇シ脉小ニメ不弱舌止無苔上腹  
微滿脇肋疼痛腫脹ス〇按ニ性稟脆弱産后惡露不下  
酷厲人物トナリ漸々液中ニ混シ腱筋ニ溜滞シ且「  
ニスノ加フル「アラシカ」〇治方「カロメル」十二凡  
「アツサホ」チダ三分「ハレリアナ」一錢「メーカラツプ  
「ストト」青ユニ「ルボーム」サツサフラス 右水煎

外用癩泡膏若癩焮熱腫等ノ疔脈強實ナレバ得ハ  
故血清涼劑ヲ急ルヘカラス  
一東光菴智彰尼幼ニメ頭上ヲ火傷シ其痕或膿潰シ  
或愈荏苒トメ不治今ニ至ル然氏近頃瘡口漸愈膿汁  
尽タリ五年前ヨリ面部ニ小瘡ヲ癩シ時ニ甚シク時  
ニ輕シ色赤ク又形ヲ天刑トノ如シ○按ニ火傷腐爛  
ノ膿汁血中ニ混シ如此疔致スカ且恐クハ自家ノ  
遺毒アラシカ○治方シブリアト酒劑ヲ試ムニ  
瞑眩セシムルヲ勿レ○外用ローサ水四十八  
シブリアト一瓦テシキテルヘシツトエニ三十滴

安息香色浸右混和シ一度ニ三十滴ヲ白湯ニ滴  
入シ之ヲ以テ面部ヲ洗フ

一 小田村竹屋安右エ門妻年五十五久年腸痔漏ヲ患  
フ且二三年前来上衝劇シク頭髮脱落等ノ諸疔ヲ  
患ヒ医之ニ水銀劑ヲ用ヒテ口中大ニ腐爛牙齒悉ク  
脱落シ漸ニニメ愈タリ然氏漸ニ羸瘦ニ兩脚癱弱屈  
伸步行ニ難ク腸痔尚不治○案ニ元癩毒疔然レ氏水  
銀劑ノ瞑眩ニスギ又恐クハ温補ノ劑ヲ用テヒキ出  
シ来ル歟為難治○強壯脚湯メンタームーデル  
其餘強壯ノ品○テレメンターナ油兩脚ニ摩擦ス○散葉

カンフル三分、バワトフルブルムニ、スート一、

カンキリ一、右一度ニ三分日ニ三度〇煎、

メンター、ゲンチカレラペラー、タルフルム

カルミス、右水煎

一備中浅海村親之助年廿三嘗テ二三年前世事ニ勞  
苦シテ後上衝頭痛眼カスニ耳鳴等ノ症ヲ發ス且咽  
中所謂梅核氣ノ如物アツテ嚥氏不下吐氏不出其他腹  
中變急脉數ニメ強実舌上黄苔〇按ニ多血症時ニ放  
血脚湯時ニ殺虫劑ヲ以テ腸胃ヲ滌陰スベシ  
一同郷耒永忠太郎年五十九曾テ壯年之時爵症心氣

不正等ノ症ヲ患ヒ續テ上衝シ易ク且近頃頭腦重ク  
四支痺痛眼瞼赤爛其他上衝諸症ヲ發ス常ニ温補劑  
ヲ服シ上衝諸病ノ日々甚シ其脉強壯ニメ舌上乾燥  
〇案ニ多血症衝病却テ温補劑ヲ常ニ服シ之ニ不堪  
由テ然ルカ〇治方ニ放血然氏年己ニ六十多クスベ  
カラス〇時々清凉下劑〇養生法常ニ野菜大麦スベテ  
淡薄ノ者ヲ服シ膏粱温暖ノ者ヲ禁ス  
一同國甲怒村孫一即年四十二居恒起居動作懶ク氣  
鬱メ不樂〇案ニ性稟粘液質腦中其他細管ニ粘液溜  
滞シ然ル所以ヲナス且今ヤ癩腫眼ヲ發シ白膜赤色

ヲ見ス。〇治方。カロメル下剉。頭眩ヲ伺テ下剉ヲ用ユ  
ヘシ。〇外用。蒸法。温湯ニ布巾ヲ浸シ絞リ面部ヲ蒸ス  
一同国元堀村藤助年世六曾七八年来疼喘ノ気ヲ覺  
ハ近頃漸、劇ク其發スル多クハ物有テ心下衝逆シ  
掌急スルキハ則發ス或ハ半日或一日一夜ニメ治ス其脉  
數ニメ不弱舌上有苔乾燥ス。〇按ニ酸敗志加ルニ蛔虫  
ヨリ發スルノ喘息トス。〇治方。カンキリニ莪 雞子壳  
コロニセルシ 或ゲンチ五分 才ヒユム一匁 アロエ分三  
メシターオリリ一五滴 石為散一度ニ二分或三分日  
ニ二三度若病發メ甚シキハ三味散剉ヲ蘿蔔汁ヲ

以テ服ス。〇煎剉殺虫健胃剉阿魏テシキテール十滴ヨリ  
此滴迄ヲ加入シ服スベシ。〇好相エニキリ  
一 小田原町土倉為助妻年世三曾テ五年前赤帶下ヲ  
患ル一二月漸ク差テ後齒齦ヨリ出膿汁下久々遂  
ニ牙齒悉ク動クニ至ル膿汁漸ク止ム今ヤ牙齒動揺  
メ將ニ脱落。〇按ニ壞血様ノ質トス。〇含嗽剉  
ハキナ煎汁常メラテシキテールセトソトテール少シ  
ハワサヒ 右混和シ含嗽ス。〇丸茶。キナ四錢 ケンチ五分  
其エーセル カンフル五分 石分チ一度ニ十粒ツ、  
日ニ二度或三度

一同馱十太即妻年卅九今夏五月四月ノ胎ヲ分娩シ  
其右右手寸関ノ部疼痛甚シク次テ左手モ亦然リ且  
右手微腫夜夢ニ臨テ痛益劇シク身体マサニ崩レント  
スルカ如シ常ニ動悸アリ少シク歩行スルキハ息迫  
甚シク萎黄眼瞼内唇舌色少ク黄胖ノ症ノ如ク脉反  
テ數実小便時々頻數。治方ニ五トセル五トテハ三  
蕎麥五分ニテ一錢ノ右以酒煉リ一度ニ五分或一  
錢日ニ兩度若効ナキハカロメルアツサホト夕夕劑  
ヲ用ユ或一錢殺虫劑可ナリ  
一同家男子年十三其年ニ比スレハ為人小生未半身不

遂ノ症ヲ患フ然レモ甚シキナリ且右手足小癱弱  
ニシテ運動ニ難シ。按ニ西洋ニ所謂エングリシ  
キテカノ治方ニカロメル劑宜シ後健胃劑メトカラ  
一同郷龜次郎男年甫七才二三年來夜褥ニ臨テ咳嗽  
甚シク時ニ發シ時ニ輕項頸數核アリ。案ニ胎毒粘  
稠ヨリ發スルノ症。カロメル劑ニテ夕子ニヤ一錢  
トナシト三カニキリ一錢ソイケル適宜。右八貼  
トナシ日ニ二度先二日程用テ疹ヲ發スルニ至ラシムル  
勿レ常用九葉セーブ丸  
一同処勘次郎男子年十五夏月ニ至ル毎ニ雀目ヲ患フ

且額門膿腫ヲ癸ス形流注ノ如シ屢破潰メ又故ノ如  
ク脈微數眼中瞳子散大。○按ニ胎毒兼蛔虫カロメル  
カシキリノニストト時ニ殺虫劑以下之。○外用切斷  
法腐葉等ヲ用テ膿潰腫ノ手管トス  
一備前山中島領右門年四十五嘗テ五六年前衄血ス  
ル一數升瘡後疲勞漸々復故ス二三年以來津唾粘稠  
甚而稀飴ノ如ク酒スルキハ必下血ス常ニ項背及胸痛  
脚冷心下痞滿等ノ諸症ヲ患フ。○紫ニ元來酒客ニメ  
性稟強壯多血加之酒量過度故自然ニ下血カ其患避  
ク然レ腸胃不和飲食消化ニ便ナラズ以テ前症ヲ致ス

モノカノ治方 酒毒ヲ消シ腸胃ヲ強壯ニスル下劑  
ヲバル中 ゲンチホ アニシム ミユスベルク ノニス  
一 ストト小 オンデルソト中 石沸湯ニ入テ三沸七度  
服ス

一備前沖新田九番乙子屋辰右門妻年世六曾四月以  
來腹滿シ殊ニ左ノ臍傍上下掌急胞脹甚シ且咽喉物  
下リ嚙下ラズ吐下不出其近傍并ニ胸肋痛ニ項背  
尤モ甚シ六月以來經水不來<sup>而</sup>妊娠ノ徵ナシ然レ其  
腹凡氣ニアラス水ニアラス其形殆ト懷孕ノ如シ常ニ身  
体振々物ニ驚ク者ノ如シ其人元來肥滿月經少ク脈

數常ニ上逆頭痛四支冷ハ雨便難ク嘔吐シ易ク頭痛  
劇シキ片ハ少ク吐水ス。○按ニ性稟多血ニメ月經少  
ク子宮中諸脉管閉塞シ血液ノ順環シ障礙シ寧急ヲ  
起シ子宮衝逆ノ症ヲ見スナラシメ○丸劑カロメルハ  
アツサホトチダ三分　ラバル五分　煎劑　ガラス  
ゲンチ　ラバル　パール　ブル　カ子　ル  
○外用脚湯子宮キリステル  
一園山松山屋彦右門年卅五曾テ六七年前患瘧後痢  
ヲ病漸ク痊テ后喘息トナリ毎月發スルヲ二度或三  
度荏苒トメ今ニ至テ其脉少ニメ不強元氣未神經質ニ

メ不強壯。○按ニ肺藏脆弱寧急ヨリ發スル喘息トス  
○第一發泡兩服ニ貼シ長ク痊スヘカラズ復月灌水  
○散劑　カンキリ一錢　サルペー五分　<sup>辰砂</sup>シニフル三分  
用ルル如法。○常用散劑　ストト四錢　サルペー二錢  
カンフル五分　ケンフルヲ二錢　ソイケルハ錢  
右五分ヲ服スルヲ日ニ二度  
一備前園山丸山曹源寺隱居一航菴年七十九性稟弱  
壯曾テ小瘡疥癬ノ如キヲ患ルル多年已ニ治メ後腹  
中拘攣飲食不和四支微腫等ノ諸症ヲ患テ更ニ愈テ  
又右脚萎弱ニメ行步難ク然レ疼痛寧急等ノ症ナシ

且常ニ飲食不進其他常ニ異ナラス其脈實不弱舌上  
有苔大便自可唯常ニ浮腫ニ易シ○按ニ今疾病ナス  
ルノ症ナク唯漸々老億メ諸纖維弛寛ス諸内臓ノ機  
関モ亦然ク性稟素強壯老テ如此自然ノ道ナク今只  
飲食ノ消化ヲ促シ新ニ乳糜ヲ製造シ脈管ヲ強壯ス  
ルノ方ヲ処スルアルセムゲシキアリニシムカレシ  
ユニペルガナゲルコロイト右水煎大便不利スルハ少  
クオニデルソトトヲ加フ水気アルハカ子トルヲ加フ  
○外用擦劑西カヤブーテトオトリト○又方  
サルアルモニヤレゲトストホルトガルハ○又方

カシフルブランドウインシ若浮腫スルハテレシ  
テト油ニ雞子油ニ牛胆ニ右混和シ腎臓ノ部及患處  
ニスルベシ○健胃下劑サフラン五分アロエ五分  
メラ三分石火酒十六錢ニ浸シ蒸氣ヲ出シ用ル  
ト一度ニ四五滴白湯中ニ点シ服スル一日ニ一度  
一同藩儒臣和田八三郎年来居恒心志不樂驚悸不寐  
或悸急ニ似テ而否ス其形如何氏言難シ且肛門ト虫  
ノ行カ如キヲ覺フ其脈小ニメ數腹裏微悸急大便難  
他入之ヲ見レハ無病ノ人ノ如シ○案ニ腸虫ヨリ發  
スル神經病トスアツサホー千ダダハレリアナ一錢

カロメル分五十分 右為丸六ツニ分十每朝  
一貼ヲ服ス食ヲ可遠○煎劑 健胃殺虫○灌腸劑  
胡蒜煎汁 アギテンキテールルゼルプ  
右混和ニ注射  
一岡山倉鋪屋忠七年廿九積年結毒七八年前初テ右  
ノ脚ニ癢ニ疼痛其疼夜尤モ甚ニ漸ク四年ニメ治ス  
後尤脚亦然リ上膝蓋骨ヨリ下踝骨上ニ至ルテ前  
脛瘡口ヲ開クノ數処或筋肉ニ至リ或骨ニ至リ全ク  
漏ノ如ク常ニ稀薄汁ヲ出シテ更無痛○按ニ梅毒積  
爵死痺状ヲナスニシブリマトト酒劑 ○外用黃金

水ヲ以テ瘡口ヲ洗ヒ清淨ニナスノ後 川柳皮  
ヲメラ良前汁ヲ以テ洗ヒ又是ヲ可貼 ○煎劑 白  
サツサフラス ヲガラヌニニルボトムス  
右水煎 カンフル丸兼用

一備前山崎村平吉娘年十六去年早春麻疹ヲ患テ三  
月ニ至リテ尤指痛漸ク增長メ如痛風四支關節悉痛  
以テ屈伸ニ難ク殊ニ踝骨痛下利甚シク今ニ至テ不  
治性稟結核様月經未來其他飲食ニ便如常○案ニ真  
痛風毒殊ニ月經未來順環不宜以テ永ク不治之ヲ  
□□ゲルマールケイノトス ○散劑 カロメル六分

アツサホー午夕三分  
ハレリアナ一棧  
カンフル三分  
右九トナレ六貼ニ分午日ニ二度  
煎劑  
カ子トル  
ニニペルホーム  
サツサフラス  
食ス  
トトガラス  
眞  
メーカラプ  
水煎  
○常用丸劑  
サルアルモニヤニ棧  
カンフル五分  
セープ適宜  
右為九五七日ニ服ス  
○外用上好火酒  
カンフル  
サルアルモニヤニ  
右混和  
患處ニ摩擽ス  
○粘劑  
白苺子大  
大麥大  
右為細末酢  
ヲ以テ之ヲ煉ル  
○登泡劑  
患處痛ノ甚處ニ温暖ノ  
時候ヲ見合蛭ヲ付テ吸血セシム  
○每晚脚湯  
白苺  
子大  
塩大  
○又方  
アラビヤゴム溶解劑  
九十六棧

鹿角塩三分三厘  
甘硝石精二棧  
右混和ニ一度ニ  
一七ツ一日ニ三度服ス

一同郷中島町吉三郎妻北三二三年来歩行スル片ハ  
急迫心下苦悶嘔吐上衝甚劇則目不能見耳不能聞等  
ノ症登メ二三日不止走則壹町計ニメ然リ緩歩則一  
里計ヲ行クベシ常ニ頭痛面色青月経不順脛骨微腫  
脈不弱○按ニ多血ニメ月経不順ヨリ登ニ以テ胸水  
トナルノ症  
○治方  
毎夜脚湯  
ソート一握  
カルク少  
○散葉  
シキタリス一分  
サルヘー一棧  
カンキリ二棧  
カンフル三分  
右六貼ニ分午日ニ二度  
煎劑  
カラス

ユニペル ユニヘルボーム オニデルソート サルペー  
○カルクユス 右水煎エーゼルテシキテール北滴ヲ加へ一  
日ノ服量トス  
一園山藩青木鉄藏年十六時ノ頭痛ヲ登スル一四五年  
四支動搖所謂「シントアントニシ」キテ「ヲ登シ荏苒トメ  
不洩今ニ至テ其頭痛ノ登スル一月二三度最甚状寢  
ヲ得ガレハ不洩脉実数舌上有粘苔大便秘結。按ニ多  
血症且神經牽急ヨリ登スル病ヲ兼。治方ニ放血再三  
スベシ一次八十錢、カロメル一厘三毛 アギ三分  
ゲンチ 三分 アロエ 三分 スート 一錢 右為九十二

分チ日ニ一度或二度ノ脚湯。時々下劑殺虫劑ヲ試  
ムベシ以テ腸胃ヲ清淨ニスルノ後罌粟舍利別或ハ  
オヒユムノ麥ヲ少シ試ムヘシ  
一同藩園崎久之助年廿八生来脆弱常ニ感冒ニ易シ  
頭痛食スル毎ニ心下ニ停滯シ氣重ク其他酸敗ノ諸  
症ヲ兼ヌ○按ニ神經脆弱粘液質以テ腸胃并ニ諸管  
ノ機関不健○治方ニ防酸敗方内科選要健胃劑 剛  
鉄劑

一同藩青木鉄藏男児年五正ニキリス病○治方  
カロメル六瓦 カンキリユト スート三分 ソイケル適

右十二ニ分午一日ニ二度。煎刻。メーカラツフ。一味  
水煎時。殺虫劑。常用丸。葉。カンフル三分。モニヤシ一  
セ。プ六。石為丸。鉄木脚湯。時。カルクワ。レ  
温。メ。少。ツ。服。又。本。計。煎。刻。七。四。拾。五。五。四  
一播列明石鳴戸屋孀婦年卅八嘗於十二年前患梅毒  
初下疳便毒骨痛ノ諸症ヲ發シ而メ後大頭痛ヲ發ス  
ル下三年許葉治メ全愈ス而メ後新ニ毒ヲ傳染シ頭  
上腐爛シ漸々腐骨トナリ蔓莖スル下四五年今額上ヲ  
下リ眼胞ニ至テ甚シク膿汁臭氣最甚ニ瘡口処ニ漏  
状ヲナス下其形拳テ不可救。按ニ元來多血液ノ運

動大過ニ乘テ腦蓋骨上ノ膜ニ浸淫シ此症ヲ見ハシ  
其毒未盡身體尚不羸瘦脉不弱。治方。カンキリ。莖  
カロメル二分。スト五分。カンフル三分。ソイケル適宜  
右為散十二ニ分午一日ニ二度或三度。眩暈ノ度ニ随フ  
心ニ服葉禁葉方。外用。黄金水而毒尽ルノ後キ十  
カンフルノ劑ヲ用服シ外用ニ点キナメラ等ヲ用ユ  
一明石藩大夫間官平石門年六十一素酒客五六年左  
脚痠痛時ニ發シ時ニ休當復ニ至リイヨク甚シク形  
類中風ノ如シ左手亦然リ而メ動作難ク且頭眩上衝  
眼目不爽或耳鳴精心不快脚冷ル中ハイヨク痺痛シ其

脉數ニメ不弱舌上微粘苦其他多血ノ候アリ。按ニ元  
傷冷毒ヲ得テ痰痛ヲ登シ神經之カ為ニ衰弱シ其虛  
ニ乘シ積年ノ酒毒以テ血液ノ運動ヲ増益シ粘液ヲ  
作り已ニ脆弱スルノ神經莖中滯滞ニ閉塞スルヲ以  
テ上ハ腦髓下ハ神經ノ末梢ヲ犯メ以テ前ニ説クノ  
諸症ヲ登ス然レ年已六旬有餘恐クハ放血ニ不堪且其  
性酒ヲ禁スルヲ能ズ以テ後未卒中ノ恐ナキニアラス  
防ガスンハアルベカラザルノ症トス。○シデレリス  
刮大大麦ササルト酸摸根ストト ガラス  
石水煎。○常用カヤアテト油。○又上好酒モニヤシ

又カシアルブラシド庄イシ。○常用散葉。○コロニセルシ四葉  
カシアル三分ササルトニ葉 ソイケル適宜 右十二分々  
六日ニ服ス若卒中昏睡ホノ症ヲ登スル寸ハ第一放  
血第一酸ノ蒸氣ヲ薰シ嗅シム芽三清涼下刮。○常用  
脚湯メニタテル

一同家令妹世ハ常ニ月経不順ニメ多病近頃漸ク諸  
症治リ上衝甚シク時ニ心下痞痛ニ項頭強リ時ニ登  
ニ時ニ乾吐衝逆微煩掌急ホノ諸症ヲ登ス小腹ヲ按  
ニ拘挛且痛アリ且常ニ面色忽チ赤ク乍チサメ頭痛  
耳鳴ホヲ患フ。○按ニ子宮内諸脈管ノ閉塞ヨリ登ス



結メ登スルノ症○治方 第一放血カロメル下劑用法  
如法瞑眩ヲ伺ヒシブリアト劑ヲ久服スベシ○外用  
足部登泡 クイッキサルフ

一同処木屋平兵衛年六十一四年前不寐ノ症ヲ登ス  
後諸症变化メ常ニ心志不楽鬱憂悶、狐疑音響ヲ惡  
ニ常ニ物ニ臭氣アルヲ覺ユ甚シキ時ハ水清ナル  
モ臭氣アリトス其他諸症枚舉スヘカラス時ニ肛門中  
痒ミヲ覺フ脉強実舌上有苔大便秘結四肢微冷○按  
ニ身血ヨリ登スル頭腦病トス然レ老年ニメ放血堪  
ガラシカ○治方 アツサホー午々五分木カンフル三分

アロエ五分 カロメル三分 スー卜二錢。右為凡十二  
二分十日ニ一貼ヲ服ス○脚湯 食塩 白芥子○刺  
絡三四錢ニ至ル不可過○煎劑 ガラス 下ハルトフルム  
各六 酸模 中 合サル。ト 右水煎大便ノ通  
利ニ從テラバルヲ加減ス若小虫出ルアツラハ胡蒜ノキ  
リステル

一同人妻年五十三心下痛ヲ患ル一五六年其痛劇片  
ハ嘔吐酸水其痛毎日兩日兩三次○按ニ酸敗液ノ志  
トス○散劑 カンキリ一錢 或マク子ニヤ 雞子壳ニ  
ゲン午三分 ラハル五分 マンター油三滴 右分テ

二日ニ服ス後カロメル下劑用ヒサレバ恐ラク六根治  
シ難シ  
一同処河内屋長丑郎妻年三十三去年十一月經閉四  
ヶ月ニメ崩漏一塊物ヲ下シ後月經不順常ニ小腹  
急疼痛其痛兩脚ニ延ク遂ニ經閉メ腹痛イヨク甚シ  
ク當復六月ニ至リ經水下ルル一日其量若干後大快  
ヲ覺フ又經閉今ニ至ル其脈數ニメ不弱面色灰白舌  
上白苔乾燥且弄舌狀ヲナス小腹牽急手不可近陰中  
肛門ニ近キ処少シク腫起シ其痛不可近手常ニ肛門  
後テ挈脹ス○按ニ子宮口牽急閉塞ノ症○治方第一

陰部蒸發劑 菊花大 ○子宮強壯劑 ハレリアナ

カ子ール ドイセン ドブライド ガラス ムーテル

パールトブルーム 右水煎阿魏浸劑五六滴加用フ

丸劑 アッサホーキダ三分 テオウルトル四錢 カロメル八

オヒウム一八 ハレリアナ一錢 右為丸

一同処樽屋三右雨年六十二當復五月未類中風ノ如

キ症ヲ發シ言語步行共ニ難シ然レ半身不遂ニ至テ

ハ發病前兩脚發浮腫有年其脈不弱舌上粘苔○按ニ

粘液閉塞ノ症○治方 カンフル三分 サルベー

ソイケル 右為散六日ニ服ス○外用 テリメンオーリー

ヲ以テ足部ヲ摩擦ス。○若卒凡昏睡ノ症ヲ祭スル片ハ  
刺絡登泡香竈揮登劑

一浪花阿波座豊島町近江屋某老婦年六十積年痰喘  
ヲ患ヒ心胸苦滿腹皮掌急劇片ハ項背ニ徹シ呼吸息  
迫喘鳴ヲ登シ上部自汗ヲ祭ス其多諸症多端○案ニ  
掌急ヨリ祭スル喘鳴病トス○治方第一胸部登泡○  
九劑 アツサホー午ダ五分 カンフル三分 サル。ト一錢  
スート二錢 右為丸一度二十粒或十五粒日ニ二度  
○煎劑 アルター ガラス スート ゲンチ 或サル。ト  
ヲ加フ大ニ祭スル片ハ三味下劑或ハホフマンヲ用ユ

一大坂道頓堀因分屋作五郎女年十四生稟強壯月經  
整順神色爽ナリ然氏惣テ急情動作ニ懶ク兩脚常ニ  
倦惰ニ必シク過食スル片ハ胃中飽滿ニ時ニ口臭烈ニ  
シ齒齡出其他無病人ノ如シ脈必ク数舌上無苔大便  
秘ニ易シ按ニシケルボイクノ姿トス○治方 薄菜酒  
劑時々下劑健胃劑 メラ ア口工 右火酒ニ浸シ  
一度ニ五六滴早朝ニ服ス  
一浪花江戸堀三丁目佃屋吉右門患耳聾二十年于茲  
其症神志勞動上逆頭重膝脚鼓栗難以步行耳聞色音  
漸ク疎諸症退テ右兩耳終聾常ニ手掌足心煩熱當炉

浴湯難堪久診之脉實不弱口舌乾燥有苔其質纖維柔  
軟而多血矣。○按ニ血液衝逆腦中以漸釀造粘液令聰  
神經閉塞終至癡前症蓋鼓膜不損破之症虽非其治ニ  
十年來之痼疾為難治且見多血上攻面目光赤眼努脹  
其他粘液增長之候恐有偏枯卒中凡等ノ憂為不可不  
預防之症。○治方ニ尺沢刺絡灌耳法清涼下劑兼用丸  
劑稀軟粘液之方。○同處玉水町筑前橋加島屋為助小兒年甫四歲生来  
薄弱其為人尋常ニ比スレハ言倍步行遲法急性ニメ  
忿怒ニ易ク怒ル中ハ直ニ物ヲ擲ツコトニバクナリ然

レ氏其神識不痴時ニ小虫ヲ下ス嘗テ去年痘後身体  
諸瘡ヲ瘳ニ漸ニメ愈ルト云ニ○按ニ胎毒等ニアキリス  
病ノ變トス。○丸劑ニカロメル六瓜 アッサホー午夕三分  
スート五分 右丸六ニ分午其一ヲ一日ノ分量トス用  
ル片ニ又之ヲ分テ服ス。○常用丸葉ニカンキリ一錢  
アイセル五ト コロニセル一錢 ゲンチ五ト ソイケル三錢  
右十二ニ分午日ニ三度ノ煎劑ニセーラルム中ニゲンチ少  
ラバルハ アウラン中 スート小ニ水煎時ノ症ニ随ヒ  
轉方スベシ  
一同處因分屋左五郎男年十三曾テ八歳ノ時患流注

漸三年許ニメ治ス而後健忘ニ易ク時々遺尿時々  
疹常ニ皮膚枯燥然レ肉脱セズ唯木皮ニ觸ルカ如  
シ○按ニ元來胎毒ヨリ登ル流注瘡口治スルニ隨テ  
其毒聊残テ血液ニ混シ如此ノ症ヲ登ス○治方  
カロメル八丸カンキリ一錢ラバル三分ソイケル適宜  
右ハ三分日ニ二度コレヲ用ル時々其月ニ至ルキハ灌水  
スルイ日ニ一度  
一京町堀四丁目阿波座伊兵衛年廿二曾テ十年前疔  
便毒ヲ患暫時ニメ消散ス五年前ニ至テ初テ腰痛ヲ  
登シ医之ニ土茯苓剉ヲ與上衝頭痛耳鳴頸項結核ヲ生

シ其他諸症ヲ登ス漸ニ輕症トナルト亟腰痛ヤマス小便  
淋麻或白濁或血色ヲ雜ヘ日頻數身体羸瘦枯渴○按  
ニ梅毒ヨリ登スル結石腎痛ノ症類トス○治方

アルターゲルストガラスパベルスート

アラビヤゴム右水煎時候ヲ權テカロメル剉ヲ  
用ヒザレバ根治シ難シ○外用登泡腰部患处

一阿波座小向物店廣田屋庄兵衛妻年四十三曾テ三  
年来小腹ニ塊ヲ生シ腰痛ヲ登ス肩背強リ今腰痛減  
スト亟其塊漸ク增長シ腹滿既ニ鼓脹ト云レ可也之  
ヲ按ニ其塊不可得唯腹皮急腹滿シ溜水少シク波

及ノ候アリ然レ氏尋常ノ腹水ニアラス恐クハ腹水ニアラ  
ス腹内一部分ニ痰水ヲ蓄ヘ汎氣ヲ兼登スルノ症ナラシカ  
其人強壯月経歴順飲食ニ便常ニ異ナラス脉少シク数  
舌上無苔反テ滑且臭氣アリ○治方ニガラズカ子ル  
アニシムハカルシスニシタトゲンチ右水煎○此劑  
カロメル六分ジキタリス十二分ラバル四分アサホーチ五分  
右為丸四日ニ用ユス  
一阿波堀奈良屋町堺屋源右門娘年廿一四五年前初  
テ分娩茅六日ニ至テ故有テ大ニ驚駭スルアリ后精神  
楽マス爵憂悶々狂癇等ノ症ヲ登ス治セスメ今ニ至

ル其諸症枚挙スヘカラス然レ其病不劇且順整○案ニ神  
經事急ヨリ登スルノ狂大便難○治方アサホーチ五分  
カロメル六分ハレリアナ五分ラバル四分右為丸腸胃ノ滌除ヲ  
候ニ事急静止ノ劑ヲ用ユ○外用脚湯  
一京町堀二丁目紀伊国屋又三郎娘年二十九嘗テ六  
年前心志勞動ヨリ登狂ニ某治メ后再登ニ三年前病  
中妊娠ニ分娩后諸症猶又登シ今ニ至ル其狂漸為輕  
症敢テ剛強ナラス唯精神恍惚トメ人事ヲ弁セズ其脈  
數ニメ強舌上無苔大小便如常月経整順ニメ微少○  
按ニ腦神經事急ヨリ登スル狂ニメ漸ク持久為瘥



種々医療シ病変シテ今頭上ニ腫起シ顛顛上ニ漏瘡  
ヲ發シ膿汁出右脚膝上硬結メ屈伸シ難シ其脉弱ニ  
メ數舌上微苔面色萎黃飲食不進。按ニ梅毒根結ノ  
症。治方。カロメルセ四匁。カンキリニ錢。ラバル三分。  
ソイケル適宜。右十二二分。十日ニ三度大便ノ通利  
ヲ問ヒ下劑ヲ用ユベシ右ノ劑ヲ用ヒテノ后症ニ從ヒ  
シブリアート酒劑ヲ用。煎劑。ホトタラニカキナ  
右水煎。外用。クイソキサルフ。西横堀備後町大和屋弥兵衛年四十一曾テ三十歳  
許ニメ一時卒倒癩癩ノ如ク如此ナル。一年ニ二三度

○按ニ梅毒根結ヨリ發スル腦病且蛔ヲ兼。治方  
アサホー々々。シンキブルム。アロエ。ハレリアナ  
右為丸時。殺虫劑或カロメル下劑ヲ以テ下之。○外用  
上部發泡。下劑。刺絡共ニ後レタル者ハ之ヲ施メ必  
害アリ

天保四癸巳年秋九月二十一日寫畢

應齋 高橋 欽 惟謙

